

## 第6回交通ワンチーム部会 議事録

日 時： 令和5年11月30日（木）15:30～16:45  
場 所： 富山県防災危機管理センター5階 5-B・5-C  
出席者： 委員名簿のとおり

### 1 開会

### 2 挨拶

#### ●田中部会長

皆様こんにちは。

本日、第6回目の交通ワンチーム部会を開催しましたところ、皆様方には大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

県ではご案内の通り昨年6月に、この地域交通戦略会議を立ち上げまして、昨年と今年の2年間で、新しい計画を策定することとしております。本日6回目ということで昨年から議論を重ねて参りました。今年度は、関係者間の役割分担・責任分担や、取り組むべき施策についての検討を進めており、8月の全体会議では、地域交通サービスは公共サービスであり、自治体・県民の役割を事業者への側面支援から、自らの地域に対する投資・参画へ舵を切るという整理がなされております。

その後ですが、今月に入りまして、この部会以外にも3部会あり、順次開催しており、この地域交通戦略に位置づける施策について議論を行っております。このワンチーム部会は毎度その3部会の後に開催していますが、この趣旨は、地域交通は県と市町村で支えるということもあり、3部会でいろいろな議論が行われている内容を市町村の皆様へ情報共有させていただくとともに、交通事業者や国等関係機関の方にも、どのような議論を行っているのかを十分ご理解いただきたく開いております。本日はこれまで3部会で議論されました議論を含めまして、各部会の結果について、ご報告させていただきますとともに、皆様方と広く情報交換、意見交換をさせていただきたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いいたします。

なお、別の用務がありまして、私は途中退席させていただきます。それでは本日よろしくをお願いいたします。

### 3 議事

#### (1) 富山県地域交通戦略の策定に向けた検討状況等について

#### ●田中部会長

冒頭の挨拶で申し上げましたが、部会の開催状況です。全体会議を8月24日に開

催したのですが、今月に入りまして、14日に鉄軌道サービス部会を開催し、16日には地域モビリティ部会、そして27日にサービス連携高度化部会と、3部会を開始しております。

なお、その施策の視点として8月に議論しました、地域交通サービスを公共サービスとして位置づけるということや、投資・参画というキーワードで戦略を整理しているため、そのようなことも踏まえて議論をして参りました。まずは、8月の全体会議のおさらいと、今月開催しました3部会の結果について、委員の皆様と内容の共有を行いたいと思います。それでは事務局から説明をお願いいたします。

## ●事務局

(資料1、資料2、資料3、資料4に沿って説明)

### (2) 質疑応答・意見交換

## ●牧野理事・交通政策局次長

それでは、ここからは市町村、事業者の皆様と幅広く情報交換、意見交換をして参りたいと考えております。

事務局から説明のありました、戦略会議や各部会の議論について、意見交換をしたいと思っておりますが、その前に、交通ワンチーム部会のもう一つの重要な役割として、地域公共交通計画の策定に当たり、この県計画と市町村計画の整合・連携を図っていく必要がございます。これまでも、この交通ワンチーム部会を通じ、皆様と意見交換情報交換をさせていただいております。今年度は、6つの市町におきまして、地域公共交通計画の策定に取り組まれております。

本日は県と市町村、また市町村間の情報交換を目的に計画策定に取り組まれている市町村の皆様から、現在の検討状況についてもご紹介いただきたいと思います。県の計画策定だけでなく、今後、計画を新たに策定、また計画を改定される市町村の皆様にとっても参考になる情報だと思うため、各市町村における計画策定にあたっての留意点や、策定中の県計画との連携箇所等があれば、ぜひお話いただきたいと思います。

## ●富山市

富山市におきましては、昨年度と今年度の2か年で富山市地域公共交通計画を策定することとしております。昨年度におきましては地域の現状や、公共交通の概況を整理するとともに移動特性やニーズを把握するためのアンケート調査を実施しておりました。今年度につきましては、今ほどお話ありました富山県地域交通戦略と整合を図りながら、昨年度の調査結果をもとに、課題の整理や、計画の柱となる基本方針、取組方針、目標実現に向けた施策などを設定することとしておりまして、12月に予定しております富山市都市交通協議会、市民向けのパブリックコメントを実施しまして、

様々な意見を踏まえまして来年の3月、今年度中に取りまとめを行い、公表したいと考えております。

計画には、これまで行っておりますJR高山本線の活性化事業、市営コミュニティバスの運行に関わるものに加え、自動運転やMaaSなどデジタル技術の実装を図る交通DX、加えてEV車両の導入などの脱炭素を推進する交通GXなど地域交通を再構築する新たな視点を盛り込み、関係者の方々と実効性の高い計画となるように作業を進めているところです。

また、本市が進めております拠点集中型のコンパクトなまちづくりを進める上におきましては、公共交通は欠かすことのできないものという考え方は、富山県地域交通戦略会議で了承されました内容、支援から投資という考え方とも合致しているため、引き続き市民生活に必要な公共財という考えとして投資を行いまして、今後も活性化に取り組んで参りたいと考えております。以上です。

## ●高岡市

高岡市におきましても現在、交通事業者の皆様ほか関係の方々のご協力を得て、地域公共交通計画の策定を進めているところでございます。この後、パブリックコメントを行った後、来年の2月予定の協議会にて計画案を承認いただけましたら、年度内の策定完了となります。

高岡市としては基本的に鉄軌道や路線バスといった骨格的公共交通を維持しながら、これらを市民協働型地域交通システムによって繋ぎ、市内全体の移動利便性を高めるという「高岡型コミュニティ交通」を確立することで、持続可能な公共交通ネットワークを構築することとしております。

これを基本としながら、本市としましても、国や県の方向性と軌を一にする形で進めておりまして、公共交通の維持を交通事業者だけの役割とせず、地域交通サービスを公共サービスととらえ、行政・市民・民間事業者が一丸となって取り組むとともに、それぞれが必要と考える利便性の確保に向け、当事者として自らの投資と参画により実現を目指す、というものを今回、基本理念の中に加えさせていただいております。

また、取り組む施策の中には、公共交通サービスの安定運営に向けた体制の構築、財源も含め、どのような形や体制を構築していくかについても、今回新たに計画に盛り込んだところでございます。

## ●黒部市

黒部市の方でも、今年度に第2次地域公共交通網形成計画を地域公共交通計画に移行させるため計画策定を進めており、昨日、ご関係の国、県、事業者の方を交えて協議会を開催させていただきました。概ねの方向性についてはその場でご承認をいただき、2月頃に計画案を出し、その後パブリックコメントを出し、その後、何ものなければ年度内に策定という形を取らせていただきたいと考えております。

大きく変わった点としましては、地域住民の皆様にも参画して欲しいということで、

これまでどちらかというと、硬い表現をしていた計画でしたが、できるだけ一般の方にもわかるように柔らかい表現で計画を作り込んでいきたいということです。

中身については、現在の公共交通網の持続可能性・利便性向上、まちづくりや観光との連携、加えて市民・企業・店舗等の公共交通へのさらなる参画、また情報環境の充実、交通基盤の整備、を大枠の方向性としまして、現在策定をしているところでございます。

黒部市では立地適正化計画を定めておりまして、このあたりとも連携はしており、目標数値については、立地適正化計画の中で目標としている項目を、地域公共交通計画にも入れ込むことを行っております。

現在、富山県で作成しておられます地域交通戦略とも、できる限り整合性を図るようなつくり込みをしているところであり、概ね素案という形で2月にご提示を行う方向で考えております。以上です。

## ●小矢部市

小矢部市におきましては、今年度、国の補助金などもいただきながら、令和6年度から10年度までの5か年の計画期間となる小矢部市地域公共交通計画の策定に取り組んでおります。現在、この策定中の計画につきましては従前の第2期の網形成計画に続く3期目の交通計画となっております。

その検討状況としましては、これまで法定協議会である市地域公共交通活性化協議会、これを4回開催しまして、交通事業者等の皆様にもご参画いただきながら検討を進めているところです。4回の協議会の中では、交通計画策定に係るアンケート調査として市民アンケート調査や利用者アンケート、また交通事業者の方へのヒアリングについて調査結果の報告などを行い、また、先日、計画の素案についても提示させていただき検討、協議を進めているところでございます。

この交通計画の策定に関連して昨年度から市営バスの再編検討にも取り組んでおり、昨年度策定したこの市営バス再編案中間報告、これに基づきまして現在、A I オンデマンド交通の実証運行、そしてこれに伴うコミュニティバスの改正ダイヤによる運行を行っております。これらの実証運行の内容についても、協議会と事前協議を行いながら進めているところでございます。

A I オンデマンド交通の実証運行につきましては、現在大きな問題もなく実施できている状況で、利用も順調に伸びているため、一昨日、開催しました協議会では、その利用状況、利用者アンケートの調査結果報告なども行い、来年4月からの本格運行を見据えた市営バス再編案についても協議会で協議し、了承いただいたところです。

今後はこの市営バス再編も地域公共交通計画に盛り込んで、来年1月に開催する協議会で計画案をご提示して、協議を深めていく予定としております。

先ほどから出てきております立地適正化計画との連動につきましては、石動駅を中心とした立地適正化計画を策定しているため、連動する施策なども確実に盛り込んだ計画をしていく予定としております。

## ●南砺市

昨年度から、公共交通計画の見直しを行っています。昨年度と今年度にかけて、会議を3月に1回目、4月に2回目を開催し、来月12月に計画の策定に向けて委員会を開催する予定とします。

計画の中身は、基本的には県の方向性に合う形で、幹の交通に枝・葉の交通ということの基本としています。そのような中で、城端線・氷見線再構築検討会の議論もあるため、JRとの接続性をより一層向上させるバスのネットワークを構築していきたいと考えております。

それから、「葉」の部分で、南砺市でもデマンド交通に取り組んでおり、あまりうまくいかない現状がございますが、現在、地域住民が主体となった交通体系についても、実際に取り組むということで、この計画の中に盛り込みながら住民の皆様とも話をし、計画策定それから実際に取り組む予定としております。

また、Ma a Sアプリの活用につきましても、今後のJRからあいの風への移管も見据え、より一層取り組んでいかなければならないということで、そのようなことも踏まえた計画としたいと思っています。

加えて、南砺市では市営バス路線がかなりございますが、空気を乗せて走っているという批判をいただいているところでございまして、今年度、最適化計画ということで、路線の見直しを行うこととしております。まだ計画案ができ上がっておりませんが、基本的には、拠点間を結ぶバス路線を残して、市内を循環するような路線については、廃止をする方向であり、廃止したところはデマンド交通を基本とする方向で、地域住民が主体となるか、市が主体になるかは、これからの議論にもなりますが、そのようなことも含めながら、この交通計画を策定したいというふうに思っております。状況につきましては以上です。

## ●上市町

上市町における現在の公共交通計画の期間は令和6年度までであるため、2期目の公共交通計画策定に向けまして、今年度と来年度の2か年をかけて策定することにしております。

今年度は主にアンケート調査ということで進めておりまして、町民アンケート調査、加えて関係者へのヒアリング調査ということを行いました。

町民アンケート調査におきましては従来の紙アンケートも使っていましたが、デジタルQRコードを使ったアンケートも活用し、地域住民のほか上市高校生などにも調査をお願いしたところでございます。関係者へのヒアリング調査では、現在の上市町内における公共交通の現状や課題、将来の見通し等につきましても、富山地鉄をはじめ、タクシー事業者、観光協会、商工会などにアンケート調査を行いました。結果については現在集計中で、具体的にどんな意見が出されたのかは分かっておりませんが、今後、これらの結果を第2期目の公共交通計画に落とし込んでいきたいと思っております。

す。

計画は令和6年度中に策定する予定で、今後、アンケート調査の結果や、関係者の皆様のご意見を伺いながら、また今後の人口動態も見据えた、持続可能な公共交通網の整備に向けた計画にしたいと思っています。

また、県の計画や、他市町村の先進事例なども取り入れながら、デジタル化、DXの要素も盛り込みながら、効果的な計画にしていきたいとも考えております。以上です。

### ●牧野理事・交通政策局次長

6つの市町の現在の取り組み状況をご報告いただきました。ありがとうございました。

5つの市では県と同じように今年度中の策定ということで、現在まさに大詰めを迎えていると思っています。その中でも、県の方の議論を踏まえて、地域交通サービスが公共サービスであることや、自治体、市民町民の役割について、投資・参画といった点にも配慮いただいているようにお聞きしました。

では、各市町からご説明がありましたが、各地域公共交通計画の策定状況、検討状況につきまして、また、県の議論、計画策定との関連でも発表、ご報告いただいた市町の方もご質問、ご意見等ある方がいましたら、挙手をお願いしたいと思います。

後程でも結構でございますが、時間の関係もあるため、事務局からご説明しました、県計画の策定に向けた戦略会議の各部会の議論についても併せて、意見交換させていただきたいと思います。

事務局の方から説明しました資料4の補足で、富山市では、高齢者向け施策にかかる費用を公共で負担する事例として、「おでかけ定期券」、それから「高山本線シニアおでかけきっぷ」の取り組みをなされているため、少し補足いただけますでしょうか。

### ●富山市

現在、交通政策課の方では「高山本線シニアおでかけきっぷ」を所管しております。これは、JR西日本ご協力のもと、高山本線の活性化施策として取り組んでおります。

これも実際投資という部分に入るのではないかと感じておりますが、この他に富山市単独で高山本線シニアおでかけきっぷを使うことで、中心市街地や、高山本線沿線にある商店飲食店でもサービスを受けられる事業を実施しております。

前回の交通ワンチーム部会のお話とも重なるかもしれませんが、この沿線の飲食店に働きかけを行っており、30店舗ほど協賛いただいております。この方々につきましては公共サービスの支え手となるのではないかと感じており、引き続きこの協賛店を増やす取り組みや、シニアおでかけきっぷを使われた方に対し、協賛店特典サービスがあると案内し、より一層この切符を使っていただけるための働きかけを今後も引き続き行っていきたいと思っています。

### ●牧野理事・交通政策局次長

市町村の皆様の中には部会の方に、委員としてご出席いただいている方々もいらっしゃいます。今回のこの議論の報告で補足いただけることがございましたら、是非ご発言をお願いします。

### ●朝日町

地域モビリティ部会の方に出席させていただき、発言させていただいておりますが、朝日町の方では今年の3月に地域公共交通計画を策定し、今年はそれに伴った事業を行っています。その中でも地域モビリティ部会の中で資料として提示されている通り、地域交通の支え手として、地域住民・地元の事業者・企業に参画していただくことが大切だということを我々の地域公共交通計画で謳っておりまして、令和5年度、令和6年度に、町民、事業所の皆様に、地域公共交通を自分ごととして捉えていただくという視点で、いろいろ事業を進めております。現在、県が策定している計画の中でも、そのようなものがメインに出てきている内容となっており、当然朝日町としても連携して進めていければと考えております。

### ●砺波市

砺波市は、令和4年の3月に地域公共交通計画を策定しました。砺波市の場合、散居村が一つ特徴で、市民のアイデンティティにもなっており、この散居村でも快適に暮らせる、そのような公共交通という面から暮らしを支えるということをしてできないかということ、計画の柱に据えています。

この計画を受け、デマンド型乗り合い交通「チョイソコとなみ」を去年の10月から一部地域で運行しておりまして、今年10月から、市内全域で運行したのを受け、来年の4月からは、現在、8路線ある市営バス、コミュニティバスを5路線に再編をし、地域の公共交通全体を最適化して持続可能な形で運行していこうと、現在、計画に沿って取組みを進めています。今後も、県の計画の中の投資・参画といった、精神・マインドをこちらの計画の中でも強調しながら、砺波市の公共交通の取組みを進めていきたいと思っております。

### ●牧野理事・交通政策局次長

ありがとうございました。

各市町村の方での取組みをいろいろと情報提供いただきましたが、それぞれの地域公共交通計画の策定の取組みや、個別の政策の取組みに関して、他の市町村が参考になると思われますが、このような点でご質問、ご意見等ございましたらぜひ発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。県の策定との関係施策の現在の議論の状況でも結構です。

それでは事業者の皆様、ご出席いただいている中でも多くの方に、特に鉄軌道サービス部会の委員も多くご出席いただいております。先ほど富山市の取組みでもご紹介

がった高山本線の関係ですが、鹿野委員から補足いただけるお話ありましたらお願いいたします。

### ●鹿野委員

J R 西日本金沢支社の鹿野でございます。

まず、自治体県民の皆様の役割は自らの地域に対する投資・参画に舵を切るという方向性について非常にありがたく思っておりますし、それに従って城端線・氷見線もそうですし、高山本線につきましても様々な議論をさせていただいていること、大変本当にありがたく、また心強く思っております。改めて感謝申し上げます。

高山本線の関係につきましては、高齢者向けの施策ということで、富山市からご提案、ご要望いただきまして、我々と一緒に実施させていただくにあたり、まさに役割分担をご相談させていただいた中で実現できたものと考えております。これも公共交通に真摯に向き合っていたいただいております富山市のお力添えあつてのことだと思っておりますし、引き続き弊社としてもできることについて、この先も議論していきたいと考えております。

城端線・氷見線につきましても昨日、再構築実施計画の素案を公表いただきまして、事業者単体ではできないことを、地域の皆様と一緒に役割分担、責任分担のもとで、地元主体で利便性向上を図っていくものと感じております。今回、地域公共交通活性化再生法の改正等もあり、地域交通のあり方について、いろいろ注目が集まっている中で、これも沿線市、県のお力添えのもと、あいの風にも多大なるお力をいただきながら、弊社としても、是非、実現に向けて取り組んでいきたいという考えでございます。

参画という意味においても、うまくまとめていただいていると考えます。まず、着実に乗っていただくことも非常に大切だと思うため、地域における計画においては、地域の皆様にしっかり公共交通をご利用いただけるように、そのような促しもお願いしたいと思っておりますし、交通というのは都市の装置の一つであるため、そのような意味では、まちづくりの観点でうまくご活用いただきたいと考えております。

資料に観光の話も記載いただいておりますが、北陸新幹線が3月に敦賀開業を迎えます。多くの観光客をご当地富山の方にお連れできるように、我々事業者としても精一杯努力して参りますし、情報発信という意味においても、新幹線の座席ポケットに入っております、西 Navi や様々なツール・媒体を活用しながら、全国に向けて発信していきたいと思っております。デスティネーションキャンペーンなども開業後に行う予定であり、そのようなものと連携しながら、ご当地の魅力ある情報というのを、ぜひ我々と一緒に発信させていただきたいと思っております。引き続きのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

### ●牧野理事・交通政策局次長

鉄軌道サービス部会には、あいの風とやま鉄道の日吉委員にご出席いただいております。



まして、市町村のまちづくりや、様々な事業との連携といった取組みをなさっておられます。鉄軌道サービス部会の議論について補足いただけるお話がございましたらお願いいたします。

### ●日吉委員

あいの風とやま鉄道でございます。

まず、先ほどから各市町村の皆様の公共交通計画のお話を聞いておりましたら、現在の戦略会議で議論をされた内容、公共交通は公共サービスであり、それに対する投資ということ認識するということや、あるいは、まちづくりと連携して進めていくといったこと、そして鉄道とバス等との連携というような形で、どちらかという接続、あるいはラストワンマイルというようなことが出てくるのですが、このように議論されていた内容が市町村の皆様の交通計画の中に盛り込まれていることは大変心強いと思っております。

いろいろな施策が戦略会議の中でも議論されているところですが、私どもから言うと、今後春のダイヤ改正について検討していきますが、パターンダイヤを昼間時間帯の一部に導入することを検討中です。すべての区間というわけにはいかないため、まず、富山-高岡間になると思いますが、第一歩として実施していこうと思っております。

また、ダイヤの関係で言いますと、最近短時間勤務や時差出勤などにより通勤時間が拡大してきています。それにも対応するような形で、朝の時間帯、コアの時間帯より少し外れた時間帯でも増発することも考えながら、子育て支援にも配慮し、ダイヤを考えていくことを検討中でございます。以上です。

### ●牧野理事・交通政策局次長

富山地方鉄道の新庄委員には、鉄軌道サービス部会、サービス連携高度化部会にもご出席いただいております。このような新たな、地域交通サービスを公共サービスととらえる点、また、自治体・県民・市民の役割を投資・参画へと舵を切るといった関係からも、補足いただけるお話がございましたらお願いしたいと思っております。

### ●新庄委員

ありがとうございます。富山地方鉄道の新庄です。

今ほどお話がありましたようにいろいろな会議に出させていただきますが、当社としては、この戦略会議が設立されてから一貫して、皆様にお話していることは、当社の鉄道線の維持や持続性を中心としております。特に当社の鉄道線沿線7つの市町村の皆様には、自分ごととしてお聞きいただきたいと思っております。

これまでの会議で鉄道事業に関する情報は、収支の状況も含めまして、ほぼすべて皆様にお伝えしております。また、沿線の地域としてその地域にふさわしい、利用者のニーズに見合った鉄道サービスをどのように求めていくのかということと、一方で

資料2にございましたが、民間の当社で果たせるサービスレベルとの開きに対して、どのようにそれを事業者が安定的に運営しサービスできる環境体制をどのように作っているのかと、先ほどからありましたように、そのための投資とされる財源の確保をされるのか、という3点を着実に詰めることが、当社においても利便性向上を協議できる環境づくりとして、最も重要なことだと思っております。

この資料にある部会において議論された施策については、私も参加しておりますが、課題の対処も含めてほぼすべて反映されていると思っております。しかし、合意形成が図られて交通事業者は、精一杯やれることを頑張る意識があるが、沿線の自治体、そして地域の皆様にはあまりご理解いただけず、そのため、財源の確保がされずにうまくいかないことがないように、今一度、地域交通のあり方は、交通事業者だけではなく、沿線の自治体に、そして県も含めて、その地域全体で考える問題であることについて、ご認識・ご確認をお願いしたいと思っております。

最後になりますが、先日の鉄軌道サービス部会でもお話ししました、それぞれの自治体が鉄道を生かしたまちづくりを必要とされて、それを本気で考えるのであれば、特に線路などのインフラをどう維持するのか、その費用負担のあり方、関係者間の役割・責任の分担と合わせて考え直すことについて、当社と一緒に、より積極的に協議いただくことをお願いしたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。以上です。

#### ●牧野理事・交通政策局次長

ありがとうございました。

それでは時間の関係もあるため、交通事業者の皆様でこれはぜひ、ここで発言しておきたいというお話ございましたら、挙手をいただけたらと思います。よろしいでしょうか。

概ね、各部会でのご意見はこの報告の中に盛り込んでおり、施策にも反映されていると認識しており、そのような評価もいただいております。まだ発言されていない、市町村の方で、ご発言をお聞きしたいという方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いしたいと思います。

それでは、本日は国土交通省からもご出席いただいているため、まず北陸信越運輸局鉄道部の聒田次長から、もしアドバイスやご助言ございましたらお願いいたします。

#### ●聒田委員

運輸局でございます。

皆様もご承知の通りだと思いますが、今現在、新型コロナウイルスが収束しまして、宿泊旅行など観光需要は急速に回復が進んでいます。また、来年3月には北陸新幹線敦賀延伸の開業を迎えようとしており、地域の活性化が大いに期待されている状況です。

その中で、鉄道をはじめ、バスなどの需要が非常に高まっているところなのですが、

昨今いろいろな地域でもですが、バスなどの交通機関のドライバー不足が本当に深刻化しています。地域路線の廃止や減便等が行われている状況であり、観光客のみならず、地域の利用者、市民生活に本当に大きな影響が出ているという現状があります。

このような課題を考えた際に、部会の方でも意見交換されておりましたが、各地域の活力向上の施策の1つとして進めていただいている、地域が主体となって新たな移動サービスの立ち上げ、運用などの施策が今後の移動サービスに本当不可欠なものになると思います。また、ドライバーなどサービスの担い手の環境整備を含め、公共のサービスとして捉えた具体的なまちづくりへの投資を、進めていただければと思っています。

私どもとしましても、サービスの担い手の確保育成、これを事業者や関係機関と連携して取り組み、また、いろいろな施策に応じた適切なスキームを検討させていただいた上で、着実に活用できる支援を行っていければと考えております。どうぞよろしくをお願いします。

#### ●牧野理事・交通政策局次長

富山運輸支局の中村支局長、何かご助言ございましたら、お願いします。

#### ●中村委員

富山運輸支局の中村です。

今ほど聒田が申し上げたところと少しかぶりますが、投資をしていくという面では計画の中でも、国の支援の有効活用が前提になっているかと思います。そのような国の支援策につきましては地元運輸支局としても、皆様方へ情報提供や、あるいはその説明を確実にしていきたいと思っています。

令和5年度の補正予算の方も、地域公共交通関係につきましては、概要ではありますが、県、市町村のご担当の方に情報を提供させていただいております。地域公共交通については「リ・デザイン」(再構築)の加速化が補正予算の中でもございます。他分野、多様な関係者との共生で、リ・デザインを実現していくという部分もございませし、自動運転実証の調査事業も盛り込まれております。ローカル鉄道の再構築支援もあります。計画の中でも、他分野、他業種と地域公共交通サービスを連携して支えることを検討していくお話もございませ。国としてもそのようなところを進めていることを改めてご紹介させていただきます。

また、先ほど申し上げたようにバス・タクシーの人手不足の対策も非常に喫緊の重要課題だと思っており、補正予算の中でも事業者の皆様への二種免許取得あるいは採用活動への支援や助成、運転手拡大のための設備投資などもメニューとして盛り込まれているため、また何かございましたら、ご相談いただければと思います。

#### ●牧野理事・交通政策局次長

ありがとうございました。

今ほどの国土交通省からのお話も踏まえまして、オンラインの皆様も、ご質問もございましたら、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。そうしましたら、私どもは中川地域交通政策監が出席させていただいているため、有識者としてお話しがございましたらお願いしたいと思います。

#### ●中川地域交通政策監

本日自治体の皆様からそれぞれの需要に応じて進めていただいているというお話がありましたし、交通事業者の皆様からも、それに伴って一緒に実施していただいているというお話もありました。

他の部会の議論なども踏まえ、全体として、整理された方向に向かっていくと思えますし、それに向かって様々な事業が進んでいるということで、大変良いと思えます。ぜひ、この方向で引き続き進めていただければと思います。

なお、各自治体の皆様には富山大学で実施しております交通調査についてご協力をいただきまして、ありがとうございました。第1回目の調査では、残念ながら、個別の自治体に関する分析をするほどのデータ数には至りませんでした。富山県全体でどのような交通の状況かという、概ねのデータについてはある程度わかってきましたので、必要に応じて皆様の方にも情報提供していきたいと思えます。

調査はまた改めて2月頃に実施させていただきたいと思えます。正確なデータがあることが、計画策定とその実行に向けて重要です。またご協力をお願いいたします。

## 4 閉会

#### ●牧野理事・交通政策局次長

本日の部会の議事については以上であり、皆様方には終始、熱心にご発言をいただきまして大変ありがとうございました。本日の部会の結果については次回の全体会議において、事務局から報告させていただきます。

この県の地域交通戦略の策定にあたりましては、市町村、事業者等の皆様と意見交換、情報交換を深くしていきたいと考えております。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。